



戦争法案必ず廃案に

新潟市で共同の集会・デモ

2015年7月26日(日) 第1814号
発行所 新いりだ 長岡市曲新町1-12-14 ☎025(247)6366
毎月第4日曜日 定価150円(送料50円)1966年7月22日 第三種郵便物認可



戦争法案廃案を唱和する参加者=13日、新潟市

新潟市で13日、戦争法案反対の共同による集会とデモ行進が行われ、550人が参加しました。県憲法センターと平和運動センターが主催しました。

憲法センターの金子修弁護士が「私たちの運動で確実に相手を追い詰めている。多くの国民に憲法違反だと知れ渡っている。いろいろな方法で廃案に追い込もう」と訴えました。

平和運動センターの斎藤悦男議長は「国民の声が通らない国会であってはならない。安倍政権を退陣に追い込み、廃案にしよう」と訴えました。

日本共産党の、にしざわ博典政策委員長(参院選挙区候補)、社民党の小山芳元、議、工藤和雄、水内基成両弁護士が連帯あいさつしました。

4歳の子どもを連れて参加した三谷直美さんは「母親のグループで戦争法案を学習し、子どもたちのために絶対止めなければと思っ」と話しました。



メッセージプラカードを掲げる参加者=18日、新潟市

新発田市職労の男性(25)は「この法案はおかしいと思って、もっ」と話しました。

子どもたちの命を守る

各地でいっせい行動

澤地久枝さんらが呼びかけたいっせい行動が18日、各地で行われました。新潟市の万代シティでは、52人が参加して「アベ政治を許さない」のプラカードを掲げました。

3月まで保育士を46年勤めた丸山初代さん(69)は「柄姿でも黙って居られなかったのだからここにきました。私は終戦の年に生まれ、学

と勉強したり、経験したいと思って参加した」と話しました。



日本共産党県委 各地で宣伝

日本共産党新潟県委員会では、戦争法案の強行採決に抗議して各地で抗議宣伝しました。

新潟市のJR新潟駅近くでの毎週の朝宣伝では、樋渡士自夫県委員長、にしざわ博典参院選挙区候補、野本孝子市勤務員が「しんぶん赤旗」6・7月号外を配布。にしざわ候補は「安倍政権の強行採決に抗議します。戦争法案の危険性が明らかにになりました。日増しに戦争法案反対の声が沸き起こっています。日本共産党は国民と力を合わせて廃案に追い込みます」と訴えました。



霜鳥栄之氏

渡辺幹衛氏

妙高市議選 1→2へ議席増

19日投開票された妙高市議選(定数18、立候補19人)では、日本共産党の霜鳥栄之(67)が元新潟市議員(70)に現職の両氏は6位と15位で当選し、1議席から2議席に増やしました。

合計得票は1902票で、3人立候補した前回より237票減らしたものの、得票率は10・23%で0・25ポイント増やし、昨年の衆院選比例票の19・3%を得票しました。

霜鳥、渡辺両氏は、国保税、介護保険料・利用料の負担軽減、学校給食費を県内市町村に先駆けて無料にすることなどを公約。戦争法案も必ず廃案に追い込むと訴え、共感を集めました。

戦争法案強行採決に怒りの抗議

憲法センター・平和運動センターが座り込み



怒りを込めて座り込み集会に参加した人たち＝15日、新潟市

自民、公明と党が戦争法案を衆院特別委員会で強行採決したこと抗議して、新潟県憲法センターと平和運動センターは15日、新潟市で緊急の共同の座り込み行動をスタートさせました。24日まで行われました。

戦争法案を廃案に追い込み、安倍政権を打ち倒すまでたたかい続けよう」と訴えました。本共産党の渋谷明治県議は「圧倒的な弁護士や憲法学者が反対しており、我々の味方だ。廃案まで何が何でも頑張ろう」と訴えました。

スタート集会には、100人近くが参加。憲法センターの関根征士氏（県平和委員会会長）が「強行採決は許されない。憲法違反とアメリカ追従の戦争法案であることは明白。

加茂市で20日、加茂・九条の会が呼びかけた一点共同による「ストツプ！戦争法案、9条壊すな」のパレードが行われました。炎天下にもかかわらず、地元紙が「加茂の歴史が変わる」と報じるほど、出発集会には画期的な100人が参加。パレード最後には150人にふくれあがりました。



青年や若い女性の参加も目立ったパレード＝20日、加茂市

一点共同で戦争法案廃案に

加茂市九条の会パレード

鶴巻大陸代表が「これからはまだまだたたかいは続く。戦争法案を廃案にさせるまで、粘り強く安倍政権とたたかっていこう」とあいさつしました。市議会では、同会が提出した戦争法案制定の中止を求める意見書が採択されています。野一明市議（無所属）は、請願採択では党派を超えて賛成者がいて、それが民意だと強調。日本共産党の亀山重光市議は、共同の力で廃案に追い込もうと訴えました。

同様に民主党、市民代表から連帯の決意表明がありました。パレードは隣の田上町や三条市

からの参加もあり、目抜き通りを1時間歩き、「戦争法案ストツプ」「アベ政治を許さない」「安倍やベー」などのプラカードを掲げました。田上町から夫婦で参加した人は「安倍首相の危険なやり方に居ても立っても居られなかった。今日のことを聞きつけ、飛んできた」と語っていました。

県内全域へのヨウ素剤配備

渋谷県議初質問に知事明言

新潟県議会の連合委員会が1日開かれ、日本共産党の渋谷明治県議がいつせいで地方選挙後、初めて泉田裕彦知事との質疑に立ち、戦争法案、原発、医療・福祉問題の三点について、知事の姿勢をただしました。戦争法案について知事は、「現段階では国民の理解が十分には深まっていない」としながらも、「法案の是非については、見解の表明は控える」との態度をくり返しました。原発再稼働について知事は、「福島第一原発事故の検証・総括がないまま策定された規制基準では安全確保はできない」「再稼働については、手続きもふくめて議論しない」と従来の答弁を堅持しました。さらに、国の原子力規制委員会が不要とした30キ圏（UPZ）の外への安定ヨウ素剤の

田上町から夫婦で参加した人は「安倍首相の危険なやり方に居ても立っても居られなかった。今日のことを聞きつけ、飛んできた」と語っていました。

泉田知事は、これらとろくむ「地域医療構想」策定にあたっては、「上意下達でなく、地元関係者等による協議の場をつうじた地域の合意形成しながら進める」「地域医療構想調整会議を設置し、保健医療関係者や医療を受ける方々からもきめ細かく意見を聞く」と答えました。

また、国民健康保険の都道府県単位化にあたって、渋谷県議は「保険料の軽減をはかるため、一般会計からの法定外繰り入れを」と求めましたが、知事は「恒久的な財源を確保せずにおこなうのは、問題が多い」と答えました。

また、国民健康保険の都道府県単位化にあたって、渋谷県議は「保険料の軽減をはかるため、一般会計からの法定外繰り入れを」と求めましたが、知事は「恒久的な財源を確保せずにおこなうのは、問題が多い」と答えました。

また、国民健康保険の都道府県単位化にあたって、渋谷県議は「保険料の軽減をはかるため、一般会計からの法定外繰り入れを」と求めましたが、知事は「恒久的な財源を確保せずにおこなうのは、問題が多い」と答えました。

また、国民健康保険の都道府県単位化にあたって、渋谷県議は「保険料の軽減をはかるため、一般会計からの法定外繰り入れを」と求めましたが、知事は「恒久的な財源を確保せずにおこなうのは、問題が多い」と答えました。

また、国民健康保険の都道府県単位化にあたって、渋谷県議は「保険料の軽減をはかるため、一般会計からの法定外繰り入れを」と求めましたが、知事は「恒久的な財源を確保せずにおこなうのは、問題が多い」と答えました。

また、国民健康保険の都道府県単位化にあたって、渋谷県議は「保険料の軽減をはかるため、一般会計からの法定外繰り入れを」と求めましたが、知事は「恒久的な財源を確保せずにおこなうのは、問題が多い」と答えました。

また、国民健康保険の都道府県単位化にあたって、渋谷県議は「保険料の軽減をはかるため、一般会計からの法定外繰り入れを」と求めましたが、知事は「恒久的な財源を確保せずにおこなうのは、問題が多い」と答えました。

また、国民健康保険の都道府県単位化にあたって、渋谷県議は「保険料の軽減をはかるため、一般会計からの法定外繰り入れを」と求めましたが、知事は「恒久的な財源を確保せずにおこなうのは、問題が多い」と答えました。

また、国民健康保険の都道府県単位化にあたって、渋谷県議は「保険料の軽減をはかるため、一般会計からの法定外繰り入れを」と求めましたが、知事は「恒久的な財源を確保せずにおこなうのは、問題が多い」と答えました。

戦争法案は憲法無視の暴挙 弁護士会が各地で行動に立ち上がる



戦争法案廃案を必死に訴える若手弁護士ら＝13日、新潟市

新潟県弁護士会は13日、安法制関連法案（戦争法案）に反対する県内いっせい宣伝行動を展開しました。新潟、長岡、三条、上越の4市で行われ、新潟市での宣伝には若手弁護士をはじめ、約40人が参加しました。

工藤和雄弁護士は「安法制は武力行使を容認する戦争立法そのもので、明確に憲法の憲法に違反すること、最高法規に違反する。最高法規に違反することは法治国家では許されない」と訴えました。他の弁護士もリレートークで「日本は9条

で守られてきたのに、安法制を許したら子や孫が戦場に行くことになる（味岡申宰弁護士）、「平和憲法で世界に誇ってきた日本が崩壊してしまう。今こそ止めるために立ち上がるときです（小泉一樹弁護士）」、今の日本で身近な人が殺されるといふことがあっていいのか。少しでも危険だと気付いているなら、反対の声をあげよう。憲法を変えてはいけない（黒沼有紗弁護士）などと訴えました。話を聞いていた男性（70）は「こんな法案

が通ったら、戦時中の二の舞になる。反対の声を聞かない安倍首相はとんでもない。弁護士さんが頑張っているのだから、我々も頑張らなくては」と語っていました。

歴代会長・副会長 多数が賛同

新潟県弁護士会の歴代会長・副会長の有志は10日、新潟市で安法制関連法案（戦争法案）制定に断固反対する声明を発表し、記者会見しました。中村洋二郎、工藤和雄、小泉一樹氏ら11氏が参加しました。

10日までに、会長経験者31人中25人（8割）、副会長経験者も含め、103人中67人の弁護士が声明に賛同したことを発表しました。声明では「安法制関連法の制定は、他国間の戦争に我が国が参加できることを意味し、政府の行為によって再び戦争の惨禍を引き起こし、多くの人々の生命を危険にさらすことになるのは明らかであり、憲法の平和主義に反するものである。このまま成立させることを見過ぐす訳にはいか

多彩な人が廃案呼びかけ



共同の呼びかけで行われた集会・パレード＝11日、新潟市

ない」と述べています。中村氏は「短期間に多くの賛同が寄せられ、憲法無視の暴挙に今こそ頑張らなければならぬ」と訴えました。工藤氏は「切れ目のない軍事体制をつくり、言論・表現の自由も規制され、戦時中のようなことになる」と指摘。小泉氏は「安倍内閣が集団的自衛権行使容認したときに阻止できなかった責任を痛感している。なんとか廃案にさせたい」と強調しました。県弁護士会有志は、各地でシンポジウム、朝立ち、街頭宣伝、学習会、憲法カフェなどに取り組んでいます。

新潟市江南区で11日、共同による「ストップ! 戦争法案」の集いが開かれ、50人が参加し、パレードも行いました。集いは美術家、コミュニティ協議会長、老人会役員、僧侶、共産党・民主市議、社民党前市議など多彩な人が呼びかけ、亀田・曾野木両9条の会などの連絡会が主催しました。呼びかけ人の本間一人氏（コミュニティ協議会長）が「多くの国民や学者が反対している戦争法案を通してはならない。国民が動けば止められる」とあいさつしました。要請に応じて県弁護士会の水内基成氏が講演しました。水内氏は戦争法案の本質を資料にもとづき分かりやすく説明。弁護士有志が平日ピーススタンディングなどで奮闘していることを紹介し、「戦争法案は戦争に巻き込まれるのは明らか。子どもたちのために見過ぐすことはできない。あらゆる立場、いろいろな方法で一生涯反対しよう」と訴えました。交流では「『アベ政治を許さない』のプラカードをかけて立つ決意だ」「あきらめないで、次の選挙では安倍政権にしっかりと反対したい」「戦争の悲惨さをあらゆる場面で見てきた。戦争法案阻止で頑張りたい」などの決意や意見が続きました。

戦争法案許さない

青年9条の会がデモ行進

新潟県内の若手弁護士や民青同盟員などの呼びかけで結成された県青年9条の会は6月28日、新潟市で戦争法案に反対する集会とデモ行進を行い、50人が参加しました。

民青同盟の五十嵐健彦さんは「戦争法案が通れば若者が戦場に行き、殺し殺されることになる。命の問題で安倍政権に負けられない。どんどん声をあげ、廃案に追い込もう」とあいさつしました。

若者ら次々が怒りの決意を述べ、荒井和子さん(28)は「6月に東京であった若者憲法集会に参加して、若い人たちが自分の言葉で戦争法案反対を訴えていることに感動した。人の命を粗末にする社会に絶対してはならない」と訴えました。

連帯して新潟県立大学の福本圭介教授は



元気にデモ行進する青年たち=6月28日、新潟市

居てもたっても居られない気持ちで参加した。安倍政権は戦争法案の根拠が崩れ始めビクビクしている。戦争は人を殺すことに行きつくだけ。自分の意思を外に出していくことが大事だ。頑張ろう。学生たちとピースウォークを行う」と述べました。

参加者の桜井美穂さん(35)は「平和と安全は武力行使では守れない。いま私たちが戦争法案を止めなければ」と話しました。

田村美智子さんは「国民の反対の声を聞かない安倍首相はごう慢で怒り心頭だ。若者の命を守らなければ」と語りました。

若者を戦場に送るな

新発田でレッド・アクション



大看板を並べ戦争法案反対を訴える女性たち=2日、新発田市

自衛隊駐屯地がある街、新発田市で2日、女性有志が呼びかけた戦争法案反対の「レッド・アクション」が取り組まれました。2回目の行動で毎週木曜に行われています。

買い物時間帯の夕方、市内の大型スーパー前で、「若者を戦場に送るな!」の大パネルを掲げ、赤いTシャツや帽子、傘などを身に着けた女性たちが沿道に並んで訴え、ひとさわ目立ちました。

今回は、新婦人会員や年金者組合員、一般市民の参加もあり、マイクでの訴え、パネルもち、ピラ配り、署名を訴えるなどいろいろな行動を展開。遠くから駆け寄ってきて、「私も反対!」「頑張ってください」と話しかける人もいました。

ピースバスツアー in 広島

8月3日~7日

参加費 学生・高校生 5,000円

青年 10,000円

申込み 民青新潟県委員会

社会医療法人 新潟勤労者医療協会

理事長・高橋常彦	〒956-0814	新潟市秋葉区東金沢1459-1	Tel.0250 (24) 5170
下越病院	〒956-0814	新潟市秋葉区東金沢1459-1	Tel.0250-22-4711
舟江診療所	〒951-8011	新潟市中央区入船町3-3629-1	Tel.025-229-3588
介護老人保健施設入舟	〒951-8011	新潟市中央区入船町3-3629-1	Tel.025-229-3588
坂垂診療所	〒950-0075	新潟市中央区沼垂東6-4-12	Tel.025-244-0116
沼井輪診療所	〒950-2054	新潟市西区寺尾東3-8-35	Tel.025-269-6630
おぎの里	〒956-0012	新潟市秋葉区荻野町3-8	Tel.0250-25-3071
ときわ診療所	〒950-0036	新潟市東区空港西1-15-17	Tel.025-274-2714
かえつクリニック	〒956-0836	新潟市秋葉区田家2-1-30	Tel.0250-22-5888
下越鍼灸施術所	〒956-0837	新潟市秋葉区吉岡町18-26	Tel.0250-23-3347
かえつ歯科	〒956-0831	新潟市秋葉区中沢町1-25	Tel.0250-25-5510

あじい妙



(昔③) 夏、麺類をよく食べる。冷たいぶっかけはそばによし、うどんもよし、そうめんもよし。ナメコがのごしを増してくれる。(高橋シズ)

地方政治と住民運動の専門誌

議会と自治体

月刊